

秋田県立図書館所蔵の往来物資料について

Investigation report on “OURAIMONO” documents of Akita Prefectural library possession

郡 千寿子*
Chizuko KOHRI*

要 旨

秋田県立図書館所蔵の往来物資料について、文献調査を行い、分類整理を試みた。その結果、往来物資料としては、かなりの所蔵数が確認でき、全容解明には時間を要することが判明した。今回は、近世期の版本についての調査結果を提示することにするが、総数は50本であった。継続的に行ってきた、北東北地域－弘前市立図書館・八戸市立図書館・岩手県立図書館－所蔵の往来物資料と比較すると、近世期版本の所蔵については、弘前市立図書館所蔵資料数には及ばないものの、岩手県立図書館や八戸市立図書館よりも見るべき文献資料が多いこと、そして、特に理数科往来の存在が際だっていることが明らかとなった。地域における資料の偏在状況と、資料の分類整理を通してみえてきた諸特徴についての一面を提示し、それぞれの地域における教育環境や文化的背景の共通点や相違性など、新たな視点からの研究の可能性を示唆したものである。

キーワード：往来物、出版文化、庶民教育、理数科往来

1 研究の方向性について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究¹⁾をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のものが出版されている。

従来の往来物研究は、教育史資料という側面が大きかったが、人間文化形成に果たした役割や社会に与えた影響など、多くの未開拓課題が残されており、新たな視点からの活用が期待されている。

日本社会の近代化に往来物資料が、大きく関わっていたことが予想されるのであるが、文献資料の基礎的研究をはじめとして、その発掘も未だ十分にはすすんでいない現状にある。そうしたことをふまえて、北東北地域の往来物資料調査を通して、近世期の庶民生活の一面や教育的背景について考えてみたいと思っている。

本稿では、秋田県立図書館所蔵の文献資料調査か

ら、どういった往来物が所在しているのかについて紹介し、分類と整理²⁾を試みた結果を提示した。また、その調査結果について、弘前市立図書館の所蔵状況と比較することで、北東北圏の往来物資料所蔵の偏在状況を明らかにした。今後は、それぞれの文化圏における、往来物資料の存在意義についてなども考察検討していきたい。

2 秋田県立図書館所蔵資料の調査について

秋田県立図書館所蔵資料の調査に先立ち、すでに弘前市立図書館、八戸市立図書館、岩手県立図書館について、それぞれ所蔵する往来物資料についての文献調査³⁾を行なっている。原則として、写本は除き、版本に限って、成立時期や出版元を確認し、それらを目的別と出版地別に分類整理して所蔵資料の特徴について考察検討を続けている。

写本を除いたのには意味がある。この研究の大きな目的のひとつは、地方における近世期の庶民生活について、出版文化を通して考えてみることである。写本

*弘前大学教育学部国語教育講座

Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

はもちろん、その資料の内容を知るには重要な資料であるが、どこでどのような文献が出版され、それがどのような場所で使われてきたか、文化や教育の流通状況を解明するためには、版本の方がより大きな資料的価値をもつと考えたからである。すべてを詳細に検討するよりも、大要を明らかにするために調査資料をより限定して考察検討する方法をとった。

基本的には、従来の調査手法を踏襲し、秋田県立図書館所蔵の往来物資料を調査することにし、分類整理を試みたい。本稿では、手始めとして、どういった種類の往来物の存在が確認できたかの分類別の調査結果を紹介することにした。また、北東北圏の中における、弘前市立図書館や岩手県立図書館の所蔵資料との比較検討をふまえ、秋田県立図書館所蔵資料の特徴的と思われる一面について明示してみたい。それぞれの地域における往来物資料の調査結果を基礎として、今後、資料存在の意義をはじめとして、地域の教育環境や文化特性などの考察検討につなげてゆきたいと考えている。

3 秋田県立図書館所蔵の「往来物」について

3-1 近世期版本の目的別分類所蔵状況

秋田県立図書館所蔵の文献資料調査の結果、往来物資料と判定した近世期版本は、総数50本であった。他にも、近代明治期以降に出版された往来物資料や書写本を含むとすると、かなりの所蔵数が確認される。分類するにあたって、理数科往来⁴⁾については、理学型〔天文・地学関係・生物関係・窮理（物理）関係〕と算数型を含むものと考えた。植物・本草関係についての文献資料も、多数の所蔵が確認されたが、ここでは理数科往来に含まないものとして分類整理した。

それぞれの詳細な書誌調査と内容分析は、今後の課題であるが、秋田県立図書館所蔵の往来物資料の中には、『国書総目録』⁵⁾に秋田県立図書館所蔵の資料が掲載されていない場合があり、これまで未確認未詳の文献であった可能性が高いものが含まれている。また、今回の基礎調査を通して、北東北の他地域一弘前市立図書館・岩手県立図書館・八戸市立図書館一には所蔵が見られない、珍しい文献資料が多く確認されたことも注目すべき点であるといえるであろう。

往来物資料と認定した所蔵文献について、目的別に分類整理し、参考までに書名（目録記載書名）を掲げて示しておくことにする。

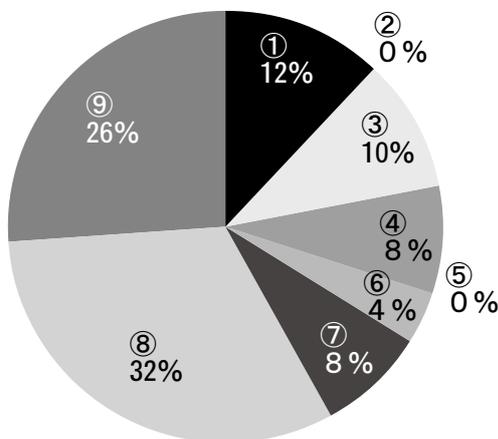
- ① 教訓科往来（6本）
 - 『新童子往来萬家通』
 - 『小笠原諸禮大全』
 - 『六論衍義』
 - 『六論衍義大意』
 - 『六論衍義大意』（絵入）
 - 『今川童蒙解』
- ② 社会科往来（0本）
- ③ 語彙科往来（5本）
 - 『作文率』
 - 『文林良材』
 - 『虚字解』
 - 『實字解』
 - 『寺子読書千字文』
- ④ 消息科往来（4本）
 - 『消息往来』
 - 『絵本庭訓往来』
 - 『菊寿庭訓往来絵抄解』
 - 『御家消息往来』
- ⑤ 地理科往来（0本）
- ⑥ 歴史科往来（2本）
 - 『南朝忠臣往来』
 - 『弁慶状』
- ⑦ 産業科往来（4本）
 - 『錦耕商売往来』
 - 『増補新鑑百姓往来豊鑑』
 - 『文鴻商売往来』
 - 『分限玉乃礎』
- ⑧ 理数科往来（16本）
 - 『改算記綱目』
 - 『古今算法記』
 - 『算法整数起源抄』
 - 『算法地方大成』
 - 『算法便覧』
 - 『気海観潤廣義』
 - 『遠西観象図世』
 - 『天学指要』
 - 『天経或問』
 - 『天文図解』
 - 『天文図解發揮』
 - 『天文図説』
 - 『本朝天文』
 - 『弘仁曆運記考』
 - 『本朝改元考』
 - 『佛國曆象編』

⑨ 女子用往来 (13本)

- 『絵本女今川』
- 『女今川岸姫松』
- 『女孝経教寿』
- 『女五今経大全』
- 『女古状揃園生竹』
- 『女重宝記大成』
- 『女学範』
- 『女訓孝経』
- 『比賣鑑』
- 『大日本史列女傳蒙求』
- 『本朝列女傳』
- 『婦人教訓寿草』
- 『婦人養草』

3-2 秋田県立図書館所蔵資料の特徴について

目的別に分類整理した結果を通して、秋田県立図書館所蔵資料の特徴について、少し考えておきたい。比較検討として、場合によっては、弘前市立図書館所蔵資料の様相についても触れることにする。参考までに、それぞれの目的別分類資料の総資料数における割合(％表示)について、グラフ化して提示したものが、後掲の【図1 秋田県立図書館所蔵資料における目的別分類割合】と【図2 弘前市立図書館所蔵資料における目的別分類割合】である。グラフ中の番号は、①教訓科往来、②社会科往来、③語彙科往来、④消息科往来、⑤地理科往来、⑥歴史科往来、⑦産業科往来、⑧理数科往来、⑨女子用往来、をそれぞれ指すものである。



【図1 秋田県立図書館所蔵資料における目的別分類割合】

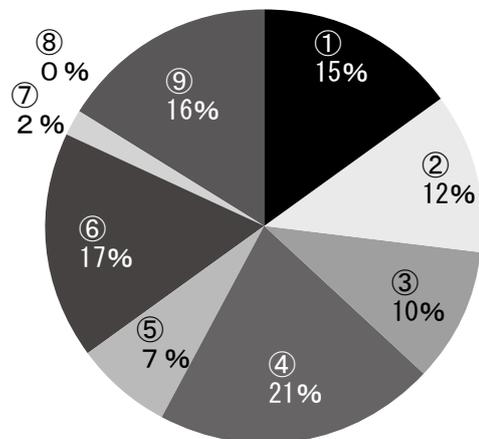
目的別分類における①教訓科往来は、道徳を説いたもの、しつけに関するもの、金言や格言を紹介したものなど種類も多い。秋田県立図書館には該当の往来物資料が6本所蔵されていたが、そのうち3本が『六諭衍義』関係のものであった。中国の『六諭衍義』を庶民教化に役立てるように、將軍吉宗の命によって室鳩巢が編んだ官刻の往来物が『六諭衍義大意』である。「孝順父母」「尊敬長上」「和睦郷里」など庶民の心得として当時、広く学ばれた。秋田県立図書館に所蔵されている『六諭衍義』は、「文政十三年版」でこれは秋田藩版である。『六諭衍義大意』は、一本は「万延元年版」であり、一本は絵入りの「享保七年刊」で別種の資料である。

『小笠原諸禮大全』は童蒙用の小笠原礼法書のひとつで、法橋玉山著、刊年は未詳。

『新童子往来萬家通』は、「弘化二年版」であるが、『国書総目録』に四か所「国学院・東大・秋田・山中」に所蔵とあり、貴重な往来物資料であることが知られる。教訓科に分類したが、合冊本であり、「実語教・童子教」「消息往来」「商売往来」など種々の内容を含んだものである。

『今川童蒙解』は、蕪葉軒狸腑著の「宝暦五年版」で、『今川状』の絵入りの注釈書である。

②社会科往来については、該当する資料が見あらず、所蔵が確認できなかった。社会科往来だけでなく⑤地理科往来についても、近世期版本の往来物資料は所蔵が見られず、目的別に分類した往来物資料の中で、空白の領域(所蔵なし)があることも、ひとつの特徴といえるであろう。



【図2 弘前市立図書館所蔵資料における目的別分類割合】

たとえば弘前市立図書館には、社会科往来資料として24本もの所蔵が確認されている。弘前市立図書館所蔵の往来物資料は総数197本であり、秋田県立図書館に比してかなり所蔵数が多いといえるが、そのなかで社会科往来の占める割合は12%である。その状況と比較すると、秋田県立図書館において、②社会科往来資料の所蔵が見られないことは注意すべきであろう。

③語彙科往来については、5本の所蔵が確認できた。『作文率』は、山本信有著の「寛政十年版」で四卷三冊。秋田県立所蔵資料は、二、三巻が合冊された三冊本の体裁である。『文林良材』は、六卷八冊で、林義端著の「元禄十四年版」。それぞれ作文に際しての作法や注意点を詳細に記したもので、一種の実用書ともいえよう。

これらは、現在の作文指導にも生かせる内容が含まれており、近世期に行われていた、作文に関する考え方や指導法などのこうした教育手法や思想が、次世代にも何らかの影響を及ぼしていると考えられるのである。近世期の作文指導の様相を示した文献資料として大変興味深く、どのように現在の教育と関係しているのか、あるいは、受け継がれている面や断続している面はどういった点なのか、など、今後、書誌の紹介とともに詳細な考察検討を要する資料であると思われる。

『寺子読書千字文』は、葛西小玉堂著の「寛延二年版」であるが、『国書総目録』によれば、「寛延二年版」として「国学院・秋田・京都府立」とある。ほかに「寛政十一年版」「天保十五年版」「嘉永七年版」などと重版された資料であったことが知られ、『千字文』関係の往来物が当時、次々と流通していた様相を示している。『千字文』に種々の付録記事を付した往来物であるが、秋田県立所蔵資料は、「寛延二年版」で、最初の版であったと思われる。

④消息科往来は、往来物として代表的なもののひとつである『庭訓往来』などを含み、ある意味で往来物資料の代名詞的なものといえる。その消息科往来の所蔵数は、4本と意外に少なかった。

弘前市立図書館では、所蔵往来物資料の中で、最も多く見られたものが④消息科往来であり、総資料数197本のうち、41本が消息科往来に分類できるものであった。つまり、総資料数に占める割合が、弘前市立図書館の場合は、消息科往来が22%とかなり大きい。

一方、秋田県立図書館では、往来物資料の中で著名な『庭訓往来』も近世期の版本としては所蔵が確認できず、総資料数に占める、消息科往来の割合は、8%

である。弘前市立図書館との相違性が明らかといえるだろう。ただし、秋田県立図書館には、近世期版本の『庭訓往来』は見られないが、明治期以降の活字本の所蔵は確認でき、また、④消息科往来と分類整理した資料の中に見える『絵本庭訓往来』は、葛飾北斎の画が描かれた資料であった。『菊寿庭訓往来絵抄解』は、『庭訓往来』を絵入りで解説したものであり、『国書総目録』では、「国学院・早大・秋田・長野」と所蔵が記載されており、これも貴重な往来物資料であることが知られるのである。

⑤地理科往来については、近世期版本としての所蔵は見られなかったが、『自遣往来』（別名：江戸往来）や『十二月往来』『諸国名物往来』といった地理科往来として著名な文献資料が、明治期以降の活字本としては所蔵されていることを付記しておく。

⑥歴史科往来は、『南朝忠臣往来』と『弁慶状』の2本であったが刊年は不明である。

⑦産業科往来は4本の所蔵が確認された。『錦耕商売往来』は「文久二年版」。『国書総目録』によれば、「文政五年版」が「奈良女子」に、「文久二年版」は「東大・秋田・長野・福井久蔵」とある。『増補新鑑百姓往来豊鑑』といった農民に対する心得を説いた往来物資料の存在も確認できた。『文鴻商売往来』『分限玉乃礎』の存在からも、社会基盤ごとの基本的教養が学ばれていた様子がうかがえる。版本としては所蔵が少ないが、このほか写本の『町人囊』や『百姓囊』の所蔵も見られ、近世期特有の、それぞれの階級社会に応じた学びが実践され、往来物資料が活用されていたことを知ることができよう。

⑧理数科往来は、16本の所蔵が確認された。弘前市立図書館や岩手県立図書館には、所蔵が見られなかった理数科往来資料が、秋田県立図書館に多数存在していることは、注目すべき点である。

理数科往来は、理学型〔天文・地学関係・生物関係・窮理（物理）関係〕と算数型に分けられる。所蔵資料のうち、『改算記綱目』『古今算法記』『算法整数起源抄』『算法地方大成』『算法便覧』の5本は、算数型であり、『気海観潤廣義』『遠西観象図世』『天学指要』『天経或問』『天文図解』『天文図解發揮』『天文図説』『本朝天文』『弘仁曆運記考』『本朝改元考』『佛國曆象編』は、理学型である。

算数型の『改算記綱目』は、上・中・下がそれぞれ二冊ずつの計六冊本の体裁である。持永豊次、大橋宅清著の「貞享四年版」であるが、『国書総目録』には、「国会・宮書（下巻）・学士院・（以下略）」など九か所

の所蔵先が明記されているが、秋田県立図書館は記載されていない。また、『古今算法記』は、澤口一之著の「寛文十年版」である。これは、「寛政五年版」や「文化九年版」などと重版された和算関係の文献資料であるが、これについても、『国書総目録』に秋田県立図書館所蔵資料は未掲載である。『算法整数起源抄』は「弘化二年版」、『算法地方大成』は「天保八年版」、『算法便覧』は「天保七年版」が所蔵されていた。これら算数型に分類される5本は、すべて大変貴重な近世期の和算関係の文献資料であるが、秋田県立図書館所蔵資料はすべて、『国書総目録』に記載がないものであり、重要な考察検討すべき資料群であることを指摘しておきたい。

『氣海観潤廣義』は、ボイス著で川本幸民訳の十五卷五冊から成る、物理関係の資料である。所蔵資料の刊年は不明であるが、成立は嘉永四年から安政五年といわれている。『遠西観象図世』は、吉雄南犀著の三卷三冊から成る、天文関係の資料で、秋田県立図書館所蔵資料の刊年は「文政九年」のものである。ほかにも『天学指要』『天文図解』など、天文・暦関係の資料が多く所蔵されていた。一般に理数型の往来物資料は少ないといわれている⁶⁾なかで、こうした調査結果は貴重といえるであろう。また、この理数型往来に分類整理した、秋田県立図書館所蔵資料も、算数型往来と同様に『国書総目録』に掲載されていないことを付記しておく。

算数型と理数型を合わせた、理数科往来の存在は、秋田県立図書館における近世版本の往来物資料のなかで、特徴的といえるであろう。総資料数からみて、理数科往来の占める割合は最も大きく、32%にもなっている。これらの資料の書誌を含め、詳細な内容分析は今後の課題であるが、このように秋田県立図書館に多数の貴重な理数科往来資料が所蔵されていることを確認できたことは、今回の調査の大きな収穫のひとつであったといえよう。

⑨女子用往来は、13本の所蔵であった。総資料数における割合は、26%であり、理数科往来に次いで、目的別分類の中では目立つ存在といえる。女性用往来資料は、日常生活総合教科書といった体裁をとるものが多く、近世期、女性がそれぞれの年代や生活場所で必要とされる一般常識が記載されたものが多く、各家庭で常備され利用されてきた一面があったと思われる。

たとえば所蔵の『絵本女今川』は、女子用往来資料において最も普及した『女今川』に葛飾北斎の挿絵が付されたものである。近世後期の庶民風俗や生活が生

き生きと描かれており、諸本が何度も版行されたものであるが、所蔵本についての刊行年は不明。

『女学範』は、「明和五年版」で学問や読書、歌、薫物、衣服などについての絵入りの女性教養書である。『比賣鑑』は、中村陽斎著の「寛永六年版」であるが、異称として「日売鑑」「ひめかゝ見」など様々多種のものが、当時、流布していたことが知られている。『小学』の教えを敷衍した女子用の教訓書で、広く読まれたものである。

『本朝列女傳』は、黒澤弘忠著の「寛文八年版」のものである。日本古来の賢女、妻女、烈女の伝記を集めて身分別に編集した女訓書で、尊卑上下から有名無名の女性たちを紹介している。

『婦人教訓寿草』は、香月啓益著の「享保十一年版」で、出産育児書というべきものである。妊娠時の諸注意から養生の有り様について記されている。『婦人養草』は、梅嶋散人著の「元禄二年版」で、女子一生の教訓と教養を多くの和漢書から引用しつつ解説したものである。

このように女子用往来物資料には、近世期の女性に対する教育面だけでなく、当時の思想や風俗についても見るべきものが多い。

弘前市立図書館にも、女子用往来の所蔵は比較的多く、31本であった。弘前市立図書館の場合は、総資料数が多いため、割合では16%にすぎないが、近世期にかなりの種類の女子用往来が流布し、活用されていたことが知られるのである。

4 まとめにかえて

秋田県立図書館所蔵の往来物資料について、その一面を紹介してきた。今回、調査対象であった近世期の版本である往来物資料は、50本を数え、それらを目的別に分類整理して、特徴的な往来物資料についてまとめてみた。

岩手県立図書館には、近世期版本資料が6本と少なく、しかしながら、『英学七ツいろは』『挿訳英利文典』といった、貴重な英語関係の往来物資料の存在を知り得た。

他方、弘前市立図書館は、他地域に比して所蔵往来物資料数が圧倒的に多く、197本であった。目的別分類の内訳をみると、図2で示したように、最も目につくのは、著名な『庭訓往来』を含む、④消息科往来であった。これに次いで⑥歴史科往来、⑨女子用往来、①教訓科往来となる。しかし、これら三種は、それぞ

れ全体に占める割合が、15～17%とあまり大差はないことがグラフからもよみとれる。そして、多数の往来物資料を有する弘前市立図書館において、所蔵が見られない領域のものが、⑧理数科往来であった。

一方で、秋田県立図書館の所蔵資料にもどって再考してみると、総数50本のうち、⑧理数科往来と⑨女子用往来でその半分以上を占めていることが図1のグラフから明らかであり、ひとつの特徴を示しているといえよう。

一般的に女子用往来は、近世期にかなりの種類が出版されていることが知られているが、理数科往来については、その時代的背景や当時の思想からの影響で、近世期の版本は少ないといわれてきた。秋田県立図書館の理数科往来資料は、前述したように、『国書総目録』にも記載がない、未確認未詳の重要な文献であり、その開拓と紹介は意味のあることだと思われる。

東北地方とひとくくりにされることが多いが、決して一様ではなく、北東北と限定して考えても、それぞれの地域特性があるらしいことが予想される。往来物資料の調査を通して、文化的背景や教育環境について、また、注目すべき往来物の資料的価値や内容面からの考察検討など、残された課題について今後も研究を続けたいと思う。

注

- 1) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について—関西文化との関係から—」(『関西文化研究叢書 別巻 往来物の研究 第1輯』、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月)、拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考—近世期の京都観—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第3輯』、武庫

川女子大学関西文化研究センター、2007年3月)等参照。

- 2) 分類については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)を参考とした。
- 3) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について—関西文化との関係から—」(『関西文化研究叢書 往来物の研究 第1輯』、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月)、「岩手県立図書館所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第100号、2008年10月)、「八戸市立図書館 旧遠山家所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第102号、2009年10月)等参照。
- 4) 石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)の「理数科往来」についての分類を参考とし、「本草・園芸関係」の資料は含まないと規定した。
- 5) 『国書総目録 全9巻』(岩波書店、1963～1976年)による。
- 6) 石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)の178～190頁参照。「理学類」の項目で「江戸時代は、自然諸科学およびこれを支える思想がじゅうぶんに発達普及しなかったから、必然的にこの方面にかかわって作られた往来の種類は少ない。」とある。

付記

貴重な文献資料の閲覧許可をいただくなど、研究にご協力とご助力をいただいた、秋田県立図書館の関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

本研究は、科学研究費補助金(基盤研究(C)課題番号19520382)の助成を受けた研究成果の一部である。

(2010. 2. 1受理)